

いては、しばしば主要点の一つとして、「家政学はどのような科学であるか」という問題が提起され、その解明が試みられている。本報告は、この解明に資するために、一つの試論をつけ加えることによって、家政学論への接近をはかろうとするものである。

2. 3. 19世紀末以来、いわゆる社会科学の成立に伴って多くの「科学論」が提出され、さらに個別科学の展開に当たってそれぞれの個別科学の研究者の立場からの発言も行なわれている。本報告では、現在の時点に立って、家政学の立場から、これらの科学論を吟味し、次のような諸点について演者の見解を述べて諸賢の批判を仰ぎたい。◇科学論の歴史的性格 ◇“実践科学”の位置と性格 ◇近代技術と技術学（付・技術と技能） ◇個別科学の成立（分業と協業） ◇科学と“価値判断排除”

#### D-18 科学論・技術論の検討 —家政学試論第1部—

青山学院女子短大 深谷 浩

1. 家政学の基本的性格を明らかにし、これに基づいて家政学諸分科の展開に寄与せんとする研究は、すでに多くの研究者によって行なわれている。これらの研究にお